



みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

パラオ共和国研修生交流プロジェクト

ケネリーさんとシェナさんが、本市の魅力のパラオ共和国へ発信すると共に、パラオ共和国の伝統文化を市内の高校生へ紹介し友好交流を促進する『パラオ共和国研修生交流プロジェクト』を行いました。

この事業は、パラオ共和国での本市の知名度の向上と身近に感じてもらうこと、研修生と高校生などが交流することで相互理解を深め、継続的な友好交流の促進を図ることを目的として実施しました。

2/18-21 ①本市の魅力のパラオ共和国へ発信

常陸大宮高校生徒3人、小瀬高校生徒2人を案内役と撮影アシスタントとして迎え、研修生が市民の皆さんへのインタビューや観光地・特産品の取材を通して、本市の魅力（場所・もの・食べ物・人など）を学びました。それらを写真や映像に収め動画を作成し、研修生がSNSを使ってパラオへ発信します。

ケネリーさんは、「高校生が英語で常陸大宮市の魅力を説明してくれ、多くのことを学ぶことができた」と感想を述べていました。参加した高校生からは、「自分が住んでいる常陸大宮について、まだまだ知らないことが多く、この機会に常陸大宮市の魅力を再発見することができた」「英語学習の励みとなり、研修生と友達になれてよかった」など参加してよかったとの声が聞かれました。



▲高校生による観光地の紹介

2/18-21 ②パラオ共和国の魅力発信と友好交流の促進

常陸大宮高校2年生48人と小瀬高校1年生30人を対象に、研修生がパラオ共和国の紹介をしました。パラオの『シューカン』（パラオ語で冠婚葬祭等のこと）である“Omengat（オモガット）”について説明をしました。オモガットとは、第一子誕生後に無事に出産できたことを祝い、母親の体力の回復を祈る儀式のことです。教室にオモガットの会場の様子を再現し、高校生にはパラオの雰囲気味わってもらい、お金を持ってお祝いするダンスも体験しました。参加した高校生からは、「パラオでは、お金を持ってダンスをしてお祝いするなど日本と全く違う文化がありびっくりした。今回パラオの話聞いてパラオに興味を持った」「パラオの人々は家族をととても大切にしていることが分かった」などの感想が挙がりました。

プロジェクトを終えてシェナさんは「常陸大宮市の魅力を高校生とともに探ることができた。これからも、パラオの人に常陸大宮市について知ってもらえるようにSNSを使って発信していきたい」と話していました。

今後も、研修生と高校生が協力して本市の魅力発信を行うことで、パラオ共和国と本市の若者のネットワークを構築し、SNS等を活用した新たな交流を促進していきます。



▲パラオ共和国の文化を紹介しました

ホストタウンフレーム切手贈呈式

オリジナルフレーム切手「常陸大宮市×パラオ共和国ホストタウンフレーム切手」が日本郵便（株）から販売されることを記念し贈呈式が行われました。受け取った三次真一郎市長は「素晴らしいホストタウンフレーム切手をいただいた」とお礼を述べられました。切手は、市内にある郵便局（一部の簡易郵便局を除く）のほか、東京中央郵便局、大手町郵便局、インターネットで購入することができます。

